

県土木部は1月
30日、建設業か
ら新分野に進出
し、他の模範とな

新分野進出優良企業4者に表彰状を授与

地域経済の活性化や雇用の創出等を評価

— 県土木部・30年度建設業新分野進出表彰式 —

る優れた成果を収めた企業を表彰す
る「30年度・建設業新分野進出優良
事業表彰式」を開き、地域経済の活性
化および雇用の維持・安定化を図った
4者を選定し、表彰状を授与した。

今年度の受賞事業は▶五十嵐建設
工業(株)(新潟市)＝「低コスト建築のノ
ウハウを活用した介護サービス事業」
▶(株)皆建(胎内市)＝「スナゴケを活用
した防草緑化一体化シートの製品化・
販売」▶(株)小池組(新発田市)＝「空家
等の管理による“ふるさと見張り番事
業”」▶(株)山高建設(長岡市)＝「重曹
ブラストを用いた環境にやさしい洗浄
事業」—の4事業で、選考条件は①雇
用の創出効果②経営資源の活用状
況③新規性または独創性④継続性ま
たは将来性⑤地域貢献性—の5点。

式典であいさつした吉田誠吾副部長
は、地域を守る建設企業の日々の活
躍に感謝した上で、「本日受賞した4者
は創意と工夫のもと新事業に取り組
み、経営基盤の強化されるとともに、
様々なかたちで地域経済の活性化や
雇用の維持・安定にも取り組まれている」と受賞者に敬意を示した。

式典後には懇談会も行われた。この
中で小田勝俊建設業室長が新分野

進出のきつ
かけを受賞者
らに問うと、(株)
皆建の皆川
一二代表取
締役は、「東



受賞者らによる集合写真

日本大震災をきっかけに地球温暖化を
真剣に考えるようになった。また、近隣
の畑が荒廃していることもあり、その活
用と地域の活性化を図るため取り組み
を進めた」と経緯を説明した上で、県内
において新技術の普及が進んでいない
現状を指摘し、県発注工事における積
極的な採用とさらなるPRを要請した。

また、新分野進出の苦勞について聞
かれた五十嵐建設工業(株)の五十嵐豊
代表取締役は、「介護という無形の商
品を提供するにあたり様々な試行錯誤
を繰り返し、17年がかりで建設業の売り
上げを上回ることができた」と強調。そ
の上で、「今後は土木と福祉というまっ
たく違った分野が横断的に議論できる
よう取り組みを進めてほしい」と述べ、
県の今後の取り組みに期待を寄せた。

これを受け吉田副部長は「今回表
彰させていただいた事業を広くPRし、
活用の普及を図っていきたい」と力を
込めた。